

わたくしは猫ですの。

名前は——いろいろな風に呼ばれておりますけれど、三毛なので「みいさん」
なんて、この街ではよく通っておりますわ。

三毛猫だから「みい」だなんて、なんとも単純——いえ、シンプルな名前の
付け方ですわよねえ。

わたくしとしてはもっところ、麗しい名前を、
そうですわね例えば……ふぁ……ごめんなさいつい欠伸が。
考えていたら眠くなりますからやめておきますわ。

そういえば若い猫のわたくしに“さん”だなんて付けて呼びかけてくださる
広尾の人々はなかなか面白く親しみ深い方たちだと思いませんこと？
通りがかりの気ままな猫にまで親切なのはお土地柄なのかしら。
人同士もよく挨拶を交わす街ですものね。

え？ ずっとこの街に住んでいるのか、ですって？

そうですわねえ小さい頃のことはおぼろげですけど、ちょうどあそこ、
そこに白い鳥居が見えますでしょう。



その広尾弁天閣の近くで母さまを探してみいみいと鳴いていたことは憶えておりますわ。

それからどういう経緯があっいまのご主人の家に置いてもらうようになったのか今となっては思い出せませんが、穏やかな時間を過ごす毎日ですよ。

主もわたくしみたいのにのんびりしたお人ですから、こうして街をお散歩するのを許してくださっています。

おかげで人間のことにも街のことにもだいぶ詳しくなりましたのよ。

もしかすると……わたくしの方が広尾の街に詳しいかもしれませんわね。

お店にどんな方が出入りしているのかとか、どんな格好をした方が歩いていらっしゃるのかとか、そんなことも気づくようになるのです。

いつも街を見ていると見慣れた顔もできてくるもので。

“また並んでいるあの方は余程このお店のポテトがお好きなのね”

“あらあの子また大きなカバンを二つも抱えているわ。相変わらず重そうなこと”なんて思いながらお散歩していますの。

これって猫ならではの特権だと思いますわ。

たまにわざわざわたくしに話しかけてくださる方もいらっしゃるのですのよ。二カ月ほどまえでしたかしら。

いつものように通りをぐるっと歩いた後、祥雲寺の山門前に座って通りを眺めておりましたら声を掛けてきた一組の男女がいましたの。



地元の人ではなさそうでしたけれど、仕事場が広尾なのかしら、よく歩いているのを見かけますわ。

この前はお菓子のエッフェル塔があるお店にお二人でいましたし、その前はたしかお茶がたくさん売られているお店でしたかしら。仲睦まじげな様子から見るにカップルか若い夫婦といったところでしょうね。

まあ、綺麗な猫ちゃんだわ」

女性の方がしゃがんで目線を近くして、こんにちは、と挨拶をしてくれましたの。

こちらも御機嫌よう、とお返事しましたわ。

まあ人間にしてみれば「にゃー」としか聞こえていないでしょうけれど。せっかく声をかけられましたからね、お答えしないと失礼ですもの。

「返事をしたわ！ 賢い子なのね」

「もしかしてこの子がみいさんかな。このあたりによくいる猫らしい」なんて会話をしてから駅の方へ歩いていかれましたわ。

あらもう日が真上をすこし過ぎていますわね、今日も日課の街歩きに出かけなくては。

このところは穏やかな日が増えましたから……ふわあ……またまた
ごめんなさいね、暖かさに誘われて欠伸も顔をだすもので。
行き交う人たちを眺めて観察するのは楽しいものです。
とくに祥雲寺の山門前から真っ直ぐにのびる散歩通りはにぎやかで
好きですわ。

このところはたいそう静かなのですけれど、それはどうやら
いま人々はお出かけない期間中なのですね。
主もお仕事をお家でしているみたいですよ。

え？ わたくしの仕事、 ですか？

ふふ、それはこの街を見守る ― というのは大袈裟ですけど、
街に流れている時間をおかみしめることかしら。

少し落ち着いたら、

あなたもご一緒に広尾の散歩はいかがかしら。



作 天風凜 (あまかぜ・りん)